

女性に対する暴力をなくす運動講演会

見えないデートDVの現実

認定NPO法人エンパワメントかながわ 理事長 阿部 真紀 氏

恋人間の暴力「デートDV」をテーマに、11月15日(水)講演会を開催しました。教育関係者等約100人が参加、デートDVを予防するためのプログラムを実際に体験しながら、デートDVを取り巻く現状や被害防止のために何ができるかを考える時間となりました。



デートDVは「行動の制限」「精神的暴力」「経済的暴力」「身体的暴力」「性的暴力」の5つの種類に分類されます。人付き合いや服装などの行動を制限され、「嫌だ」と言えず相手の顔を伺うようになったとき、デートDVが始まります。加害者は思い通りにならないと不機嫌になったり、「別れたら自殺する」と脅



すなど精神的にコントロールしていきませんが、被害者は「お前が悪い」と言われ続けて自分が悪いと思ひ込み、誰にも相談できないため徐々に暴力がエスカレートしてしまいます。当法人の調査で、交際経験のある人のうち、10代の女性の約44%、男性の約27%がデートDV被害の経験があるという実態が分かりました。

エンパワメントかながわでは、学校等でデートDVを予防するためのワークショップ形式のプログラムを実施しています。このプログラムでは、「決してはいけません」といった禁止の言葉は一切使わず、「あなたは大切な存在だ」ということを伝えていきます。自分のことを大切にすることができて、初めて人を大切に思うことができます。自分を大切に思えないと被害に遭いやすく、被害からの回復も難しくなります。また、加害者になる人も、過去に暴力を受けて自分を大切にできなくなっている可能性があります。このプログラムは、「あなたは大切な人」と伝えることで、DVをしたくないという気持ちを育て、加害者をつくらないことも目的にしています。加害に気づいた生徒の気持ちに寄り添うことが、暴力の連鎖を断つことにつながります。

前が悪い」と言われ続けているので、「あなたは決して悪くない」と、何回も何回も言っておってください。アドバイスよりも、その人の気持ちを生懸命聴いてください。その人の持っている力を信じ、本人がどうしたいか、答えが出るまで根気強く寄り添い続けてください。別れられないことを責めてしまうと、被害者が相談するのをためらい、状況はさらに悪化してしまう可能性があります。また、支援する人が疲れてしまわないよう、関係機関と連携することも大切です。

暴力を受けるために生まれてくる人はひとりもいません。どんな理由があっても相手が誰であっても暴力を受けていい人はいません。デートDVを予防することは、DVや虐待、貧困の連鎖を断ち切っていくことにもつながります。人と人が暴力のない対等な関係であるため、「二人ひとりが大切な人」であり、「自分で自分を大切にしていこう」と伝えるための活動を続けていきます。

阿部 真紀氏 プロフィール

認定NPO 法人エンパワメントかながわ 理事長  
CAP(子どもへの暴力防止)スペシャリスト。神奈川県を中心に全国の幼児から大学生、保護者、教職員等へのワークショップを提供。「デートDV110番」(全国無料電話相談)で被害者をサポートし、「デートDV防止全国ネットワーク」を設立するなど、全国の暴力の予防・防止活動をけん引している。